

# 烏帽子会会報

2026年春号 Vol.80



臨床実習生認定・白衣授与式 集合写真(R7. 12. 12)

■ 会長挨拶	3 P
■ 第45回烏帽子会総会のご案内	4 P
■ 教授就任挨拶	5 P
■ 教授退任挨拶	8 P
■ 各種報告	10 P
■ 支部だより	19 P
■ 学年だより	23 P
■ 学生会員支援報告	24 P
■ 事業	30 P

福岡大学医学部同窓会

## 目 次

・会長挨拶	小 玉 正 太	3
・第45回烏帽子会総会へのお誘い	彌 永 武 史	4
・教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶	松 本 希	5
教授就任のご挨拶	根 本 隆 行	6
教授就任ご挨拶	新 居 浩 平	7
・教授退任挨拶		
教授退任のご挨拶	岩 本 隆 宏	8
・学会報告		
第22回九州小児泌尿器科研究会 開催報告	宮 崎 健	10
第125回九州医師会医学会第5分科会・第78回九州小児科学会・		
第100回日本小児神経学会九州地方会 開催のご報告と御礼	永 光 信一郎	11
第38回腎と脂質研究会を終えて	伊 藤 建 二	12
第73回日本化学療法学会西日本支部総会開催報告	高 田 徹	13
第29回日本バイオ治療法学会学術集会開催報告	大 野 芳 典	14
第69回日本手外科学会学術集会 開催報告	副 島 修	15
「第50回 日本東洋医学会 九州支部学術総会」報告	鍋 島 茂 樹	16
2025年度第4回超音波分子診断治療研究会開催のご報告	貴 田 浩 志	17
・クラウドファンディング達成報告		
同窓会の皆さまのご支援で実現した、NICU “やさしい空間” づくり		
(クラウドファンディング達成報告)	瀬戸上 貴 資・井 上 貴 仁	18
・支部だより		
関西支部便り	渡 邊 太 郎	19
第31回 鹿児島支部総会および懇親会報告	橋 口 恭 博	20
まかせん会女性の会懇親会	案 浦 美 雪	21
関東支部総会ご報告	柏 木 慎 也	22
・学年だより		
第11回+α 卒鹿児島同期会報告	橋 口 恭 博	23
・学生会員支援報告		
令和7年度M4白衣授与式の報告	北 島 研	24
白衣授与式・臨床実習認定式を終えて	上 平 佳 祐	25
M6医師国家試験対策のご報告	北 島 研	26
M4CBT激励会報告	北 島 研	29
・名簿管理システム導入について	北 島 研	30
・医局長・医長名簿		31
・教育職員人事		32
・編集後記		32
・烏帽子会の主な事業		33

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai  
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元  
バーコード

## 会長挨拶

## 会長挨拶

烏帽子会 会長 小 玉 正 太 (13回生 福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 医学部長)



福岡大学医学部は創立後54年を迎え、約5000人以上の卒業生を輩出しています。そして卒業生は地域医療貢献をはじめ、大学・基幹病院で若手医師育成に勤めています。また卒業生は医師会をはじめ地域医療行政にもかかわりその活躍は多岐にわたっています。また、福岡大学医学部同窓会烏帽子会ゆかりの卒業生、学生会員、準会員にくわえ、誌面をご覧頂いています学生の父母の皆様におかれましても、ご多忙を極める毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、2019年12月より医学部長として、また2021年12月より同窓会長として学部内外で同窓会事業を紹介し、同窓会の公共性や貢献、知名度向上に努めてまいりました。ま引き続きまして、多くの同窓会事業や学内外の状況を発信し、広く同窓生にご理解頂けますように鋭意努力致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

学外の活動としましては、同窓会長就任後各支部総会へ参加して、講演はじめ意見交換を行っています。関西支部(上方会)総会、筑後支部総会、

佐賀支部総会、佐世保支部総会、鹿児島支部総会、有信会宮崎支部、有信会香川支部、関東支部総会の皆様方に於かれましては、お伺いした時に支部の課題や大学からの近況報告をはじめ多くの前向きな談話ができ、大変進歩的な意見交換が行えました。また新規発足の交流部会への同窓会サポートを始め、学年等の集会にかんするサポートもなっています。くわえて、残念ながら同窓会長の支部総会参加が叶わなかった支部もこれを機に本部との交流を是非積極的に持たれてください。また、皆様方に於かれましてはぜひ総会にもお誘いの上ご参加頂きまして、新任教授はじめ若手卒業生の活躍を直に見聞きして頂きたく存じます。

さて本年度は国家試験結果が芳しくなく、ご父母をはじめ卒業生の皆さまには多大なご心配をおかけし、大変申し訳ございませんでした。教員一同その成績改善と多くの解析結果からその対策に尽力してまいります。

また福岡大学病院の本館が開院して久しいですが、厳しい病院経営の問題もあり、その方面でも課題可決に向け奔走する毎日です。ただし、今年主幹で開催いたします、私立医科大学同窓会西部会では、福岡大学病院が市政県政、市県医師会と連携する災害医療対策、福岡地域外傷蘇生センターをはじめ地域で中核となり貢献すべき医療実装について、卒業生機関病院医師に講演して頂く予定です。

最後になりましたが、烏帽子会ゆかりの皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。

## 第 45 回烏帽子会総会のご案内

主幹事学年：29回生代表 彌 永 武 史（わかばハートクリニック）

紫陽花の彩りが美しい季節となりました。烏帽子会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年は29回生を中心に、第45回烏帽子会総会の準備を鋭意進めております。昨今のAIの進歩、働き方改革、診療報酬改定など、医療を取り巻く環境が大きく変化しており、私たち医師の働き方や価値観もこれ以上に多様化しているように感じます。今回の講演は、私たち29回生のアンケートをもとに、卒後

20年を振り返り、福岡大学卒業生の現状とこれからの未来を語り合うためのきっかけになればと考えています（予定）。このような時代だからこそこの烏帽子会総会で福岡大学医学部を卒業した先生方が集まり、旧交を温めながら、経験や想いを語り合える場になれば幸いです。ご多忙の折とは存じますが、是非お気軽に参加ください。当日先生方とお会いできますことを心より楽しみにしています。



### 「第 45 回烏帽子会総会実行委員会」

29回生 猪狩洋介、小嶋(福田)ゆり、深堀 理、宮田康平、弓削(上田)理絵、吉田至幸

### 第 45 回烏帽子会総会

- 日 時：2026年7月4日 土曜日
- 会 場：ソラリア西鉄ホテル 8階  
福岡市中央区天神 2-2-43
- 総 会：17時00分～18時20分
- 懇親会・講演会：18時30分～20時00分
- 講 演：猪狩洋介先生（29回生）「私たち（29回生）の20年、そしてここから」（仮）

### 二次会 幹事学年の同窓会

- 会場：ソラリア西鉄ホテル 17階「レッドフランマ」
- 時間：20時30分～22時30分

\* 託児室設置予定 16時45分～20時45分 同ホテル内、0歳～小学生、5名程度  
\* 烏帽子会総会へ出席を希望される先生、託児を希望される先生は6月22日（月）までに「maileboshi@gmail.com」のアドレスへお知らせ下さい。

## 教授就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学教室 主任教授 松本 希 (特別会員)



松本 希  
主任教授 略歴

1990 (平成 2) 年  
福岡県立修猷館高等学校卒業  
1991 (平成 3) 年  
九州大学医学部入学  
1997 (平成 9) 年  
同卒業、九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室入局  
1999 (平成 11) 年  
九州大学大学院医学系研究科臓器機能医学専攻入学  
2003 (平成 15) 年  
同卒業、医学博士  
2003 (平成 15) 年  
米国ロサンゼルス市 House Ear Institute 博士研究員  
2005 (平成 17) 年  
九州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科医員  
2008 (平成 20) 年  
九州大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科助教  
2016 (平成 29) 年  
九州大学大学院医学研究院講師  
2022 (令和 4) 年  
九州大学大学院医学研究院准教授  
2026 (令和 8) 年  
福岡大学医学部耳鼻咽喉科学教室主任教授

2026年4月1日付で福岡大学医学部耳鼻咽喉科学教室の主任教授に就任いたしました松本希と申します。1997年に九州大学医学部を卒業後、同耳鼻咽喉科学教室に入局し、大学院および留学期間を除き、これまで主に大学において研究、診療、教育に携わってまいりました。これまでに培った経験をもとに、福岡大学医学部の発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。

研究面では、内耳細胞を対象とした基礎研究から、手術支援ナビゲーションや医療ロボットに関する応用研究まで、幅広いテーマに取り組んできました。いずれも一人の研究者で完結するものではなく、異なる分野の専門家と協働しながら進める研究が中心であり、その過程で学際的連携の重要性を深く認識してまいりました。

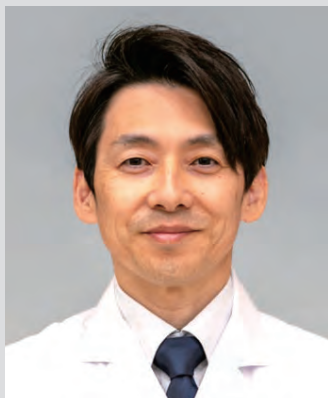
診療面において、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の領域は、一つの診療科のみで完結しない疾患が多く、他科との連携が不可欠であります。福岡大学病院は診療科間の連携体制に優れていると評価しており、この環境のもとでより質の高い医療を提供できることを期待しております。

教育面においては、専門分野を深く指導することに加え、学生の興味を喚起しながら本質を伝える教育や、熟練者の技術や思考過程を言語化し次世代に継承する「教え方の教育」に注力してまいりました。

これまでの歩みを振り返りますと、自身の研鑽に加え、多様な専門性を有する方々の知見や技術を結集することで、研究、診療、教育の質を高めることを志向してきたように思います。多くの専門家が近接している福岡大学の環境において、その経験を活かしていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 薬理学 主任教授 根本 隆 行 (特別会員)



根本 隆行  
主任教授 略歴

1996年3月  
宮崎県立延岡高等学校 卒業  
2001年8月  
英国ブラッドフォード大学 留学  
2004年3月  
宮崎国際大学比較文化学部比較文化学科 卒業  
2006年3月  
宮崎大学大学院医学研究科生体制御系専攻修士課程 修了(修士(医学))  
2008年1月  
宮崎大学医学部機能制御学講座薬理学分野 助教  
2010年3月  
宮崎大学大学院医学系研究科生体制御系専攻博士課程 修了(博士(医学))  
2019年4月  
福岡大学医学部薬理学 講師(第4条第7号適用)  
2022年4月  
福岡大学医学部薬理学 准教授  
2026年4月  
福岡大学医学部薬理学 主任教授(現在に至る)

2026年4月より福岡大学医学部薬理学講座の四代目主任教授を拝命いたしました根本隆行と申します。身に余る光栄とともに、伝統ある福岡大学医学部に身を置くことの責務の重さに一層身の引き締まる思いでございます。まずは、今日に至るまで、烏帽子会会員の皆様をはじめ福岡大学医学部関係各所、多くの方々から温かいご支援を賜りましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は、英国のブラッドフォード大学留学を経て宮崎国際大学を卒業した後、宮崎大学医学部薬理学にて学位(博士(医学))を取得いたしました。その後も、医学科の薬理学教育における姿勢や理念、研究・論文執筆に必要な洞察力や理論構築能力を身につけるべく研鑽を積んでまいりました。加えて、恩師より「臨床講座との連携なくして創薬研究の発展は無く、他の基礎講座との協調なくしては薬理学の真髄に触れ難し」との教えを受け、今日まで誠意精進してまいりました。今まさにその教えを体現する局面に来たのではないかと思う次第です。

当講座では医学部生に対する教育理念として、専門知識の獲得だけにとどまらず、アクティブラーニング教育を通して自修性・協調性の獲得を目指しております。将来、チーム医療の主軸となるべく、他との協同を重んじ、薬理学という学問を通じて豊かで幅広い見識を持つ医師に育てたいと考えております。

大学院研究では、豊富な知識と卓越した研究テーマを持つ薬理学スタッフが丸となって、医学・生命科学研究を推進しています。現在、遺伝子改変動物を用いて神経変性疾患モデルにおけるインスリン受容体シグナルやリチウムトランスポーターの機能的役割を解析しております。また、他にも、可能な限り多くの臨床講座との連携に応えるべく、多種多様な疾患モデル(神経障害性疼痛、急性腎障害、肥満・メタボリックシンドローム、肺高血圧症、末梢動脈閉塞性疾患、過敏性腸症候群など)を作出し、病態生理機能の変動解析や創薬研究を展開しております。

当講座が烏帽子会会員の皆様の一助となるべく、今後も薬理学一同誠意邁進してまいります。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御指導御指南のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 教授就任ご挨拶

福岡大学筑紫病院 脳神経外科 教授 新居 浩平 (18回生)



新居 浩平  
教授 略歴

平成 6 年 (1994 年) 3 月  
土佐高等学校卒業  
平成 13 年 (2001 年) 3 月  
福岡大学医学部卒業  
平成 13 年 (2001 年) 5 月  
福岡大学筑紫病院 臨床研修医  
(脳神経外科)  
平成 15 年 (2003 年) 5 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
医員  
平成 21 年 (2009 年) 4 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
助教  
平成 23 年 (2011 年) 4 月  
福岡輝栄会病院 脳神経外科  
平成 25 年 (2013 年) 10 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
講師 (第 4 条第 7 号適用)  
平成 27 年 (2015 年) 10 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
講師  
令和 2 年 (2020 年) 4 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
准教授  
令和 4 年 (2022 年) 10 月  
福岡大学筑紫病院  
脳卒中センター 診療部長 (兼務)  
令和 7 年 (2025 年) 4 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
診療部長 (兼務)  
令和 7 年 (2025 年) 10 月  
福岡大学筑紫病院 脳神経外科  
診療教授  
令和 8 年 (2026 年) 4 月  
福岡大学筑紫病院 教授  
(現在に至る)

このたび令和 8 年 4 月 1 日付で、福岡大学筑紫病院脳神経外科教授を拝命いたしました新居浩平 (にいこうへい) と申します。

私は高知県で生まれ育ち、1995 年に福岡大学医学部へ入学いたしました。2001 年に第 24 回生として卒業後、同年より福岡大学筑紫病院脳神経外科に入局し、以来、福岡大学筑紫病院および関連施設において、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷をはじめとする脳神経外科診療に従事してまいりました。

入局当時、着実に進歩を遂げていた脳血管内治療 (カテーテル治療) に強い関心を抱き、臨床経験と研究を重ね、医学博士を取得いたしました。また、その過程で脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳血管内治療専門医を取得し、2013 年からは福岡大学筑紫病院脳神経外科および脳卒中センターにおいて、日常診療と臨床研究の双方に携わっております。

脳血管内治療は、脳卒中の主な原因である脳動脈瘤や頭頸部動脈狭窄などの疾患に対し、四肢血管からカテーテルを用いて病変へ到達する低侵襲治療です。近年では新規デバイスの開発により、複雑病変に対する治療成績の向上に加え、より末梢血管からのアプローチも可能となっております。当科では各症例の基礎疾患や生活背景を総合的に考慮し、これらの技術を活用した最適な医療の提供に努めております。また脳腫瘍や頭部外傷に対しても、神経内視鏡やカテーテルを用いた低侵襲治療を積極的に導入し、より良い治療成績を目指しております。

近年、脳神経外科医療においては治療選択肢が多様化する一方で、多職種連携によるリハビリテーションや全身管理を含めた包括的医療の重要性も高まっております。日常診療で直面する課題を研究によって解決し、その成果を再び臨床へ還元する姿勢を、次代を担う若手医師へ継承していくことも重要な使命であると考えております。また、そのような取り組みを通じて、パラメディカルスタッフの教育や地域医療への貢献にも繋げてまいりたいと考えております。

今後も烏帽子会ならびに福岡大学病院の先生方との信頼関係を大切にしながら、福岡大学医学部と福岡大学関連医療機関のさらなる発展のために精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 教授退任挨拶

# 教授退任のご挨拶

福岡大学医学部 薬理学 前教授 岩本 隆 宏 (特別会員)



2003年4月に国立循環器病センター研究所より福岡大学医学部薬理学の講師として赴任し、2007年4月から主任教授(三代目)に昇格しました。この23年間、福岡大学医学部での研究・教育において大変貴重な経験をさせていただきました。また、多くの先生方に大変お世話になり、改めて心より感謝申し上げます。

大学院(現大阪医科薬科大学)で薬理学を専攻して以来、一貫して薬理学分野で研究・教育に取り組んできましたので、福岡大学医学部の薬理学教授に就任できたことは望外の喜びでした。薬理学は「薬物の生体への相互作用を考究する基礎薬理学」ならびに「適正な薬物療法に必要な基本知識を学修する臨床薬理学」の両面にわたる総合的な学問です。薬理学は医学教育の中で重要な位置付けにありますので、薬理学カリキュラムでは学修効果の高い内容になるように、あの手この手で知恵を絞ってきました。特に、2008年から通常の講義・実習に加えて、アクティブラーニング型のP-Drug演習を積極的に導入しました。P-Drug(Personal Drug)は本来、医師が患者に処方する医薬品を有効性・安全性・適合性・費用の基準から適切に選択し、エビデンスに基づいて自分の

処方集を作成するものですが、医学科3年生の薬理学Ⅱでは「臨床現場での薬物治療プロセスを早期に学ぶ目的」で、P-Drugを学生向けに改変した症例課題演習を実施しました(福岡大医紀2013)。高血圧症を課題とする本演習の模範解答の作成では、三浦伸一郎教授、上原吉就教授、今泉聡教授、北島研教授に大変お世話になりました。また、学生アンケートに対する対応として、薬理学Ⅰ・Ⅱの講義開始前に全講義の学修目標(各コマ毎)を作成して一括配布し、予習復習の範囲および習得すべき知識(=試験範囲)を明確にしました。医師国家試験には約10%の薬物療法問題が出題されますので、国家試験対策も考慮しながら講義・演習に取り組んでまいりました。

研究面では、主にイオン輸送体(トランスポーター)を標的とした研究を行ってきました。「特異的阻害薬を開発応用した薬理的アプローチ」と「遺伝子改変マウスを駆使した分子生物学的アプローチ」を融合した多角的手法により、イオン輸送体の機能的役割および病態学的意義の解明を目指してきました。特に、 $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体(NCX)の研究では最初のNCX阻害薬となるKB-R7943を開発しました(JBC 1996)。さらに、特異的NCX阻害薬およびNCX遺伝子改変マウ



久留米大学分子生命科学研究所遺伝情報研究部門メンバー

スを駆使した研究から、食塩感受性高血圧や肺動脈性肺高血圧の発症には動脈平滑筋細胞の NCX1 を介する  $\text{Ca}^{2+}$  流入が重要な役割を果たしていること (Nat Med 2004、BBRC 2020)、腎臓・脳・腓島の虚血再灌流障害には NCX1 を介する  $\text{Ca}^{2+}$  過負荷が寄与すること (BBRC 2025)、普遍的な概日リズムには NCX による細胞内  $\text{Ca}^{2+}$  制御が必須であること (Sci Adv 2021) を明らかにしてきました。また X 線結晶構造解析 (共同研究) により、NCX ホモログの  $\text{Ca}^{2+}$  輸送機構の構造基盤を解明しました (Science 2013)。学会活動では、2024 年に第 77 回日本薬理学会西南部会、2025 年に第 54 回日本心脈管作動物質学会を主催することができました。

2026 年 2 月 28 日には、同門関係者 (徳島文理大学薬学部薬理学 喜多紗斗美教授、福岡大学医学部薬理学 根本隆行現教授) と共同研究者 (九州大学大学院薬学研究院生理学分野 西田基宏教授) を中心とする有志により、教授退職祝賀会を開催し

ていただき、大変良い記念になりました。3 月末で定年退職となりましたが、まだ論文投稿が完了していないイオン輸送体データがありますので、4 月 1 日からは久留米大学分子生命科学研究所遺伝情報研究部門の客員教授として研究活動を継続することにいたしました。また現在、Journal of Pharmacological Sciences (日本薬理学会英文誌) および Frontiers in Physiology の Associate Editor を担当しており、2026 年 11 月 14 日には第 45 回日本マグネシウム学会学術集会 (京都大学芝蘭会館別館) を主催する予定になっています。今後数年を掛けて、在職中の研究データを論文に仕上げ、薬理学の研究・教育から徐々にフェードアウトして行く予定ですので、それまでは引き続き、ご支援を何卒よろしく願いいたします。

最後になりましたが、在職中にお世話になった皆様から心から御礼申し上げるとともに、福岡大学医学部、烏帽子会ならびに医学部薬理学講座の今後ますますのご発展を祈念いたします。



各種報告

# 第22回九州小児泌尿器科研究会 開催報告

福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座 講師 宮崎 健 (34回生)

この度は、烏帽子会の多大なるご支援のもと、上記学会を2026年2月17日に当講座主幹にて開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。今回の研究会は電気ビル共創館にて開催され、参加者は70名、登録演題数は16題となりました。

当研究会は、当講座OBである大島一寛先生が発起人となり設立されたものであり、当講座とも関わりの深い研究会として、今回で第22回目の開催となりました。本研究会の特色としては、泌尿器科医のみならず、小児外科医や小児科医も参加し、多様な視点から活発な議論が交わされる点にあります。

今回、当講座からは2演題を発表させていただきました。現在小児泌尿器外来を担当しております富永光将先生が「完全重複腎盂尿管に伴う下位腎水症に対して後腹膜鏡下左半腎切除術を施行した1例」、昨年度の新入局員である宮原拓也先生が「悪性腫瘍との鑑別が困難であった尿管管膿瘍」を発表いたしました。いずれの演題も、小児泌尿器疾患の中でも非常に興味深い病態・経過を有し、手術が奏功した症例でありました。キャリアの異なる富永先生、宮原先生(46回生)ともに堂々とした発表および質疑応答を行い、「臨床の福岡大学」を大いにアピールできたものと存じます。

また、私も小児泌尿器科医の端くれとして座長を

務めさせていただき、大変貴重な経験となりました。

特別講演として、日本小児泌尿器科学会理事長・兵庫県立こども病院副院長(泌尿器科部長)の杉多良文先生にご講演を賜りました。「小児泌尿器科一夢を託して」とのタイトルのもと、これまでのご歩みや小児泌尿器科の現状、さらには若手泌尿器科医への熱いメッセージを含む、大変示唆に富んだご講演でありました。杉多先生の熱いお言葉を受け、当講座からも小児泌尿器科医を志す医局員が増えることを期待しております。

研究会後の懇親会にも多くの先生方にご参加いただき、盛大に開催されました。医局長である私の発案により、食事内容は肉類や揚げ物を中心としたものでしたが、ご参加の皆様にもご満足いただけた様子で、安堵いたしました。

準備段階から、羽賀教授をはじめ医局員、秘書の皆様にも多大なるご協力をいただき、率先して業務にあたっていたいただいたおかげで、本研究会を無事に終了することができました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。改めまして、本学会が盛会のうちに終了いたしましたことを大変喜ばしく存じます。

末筆ではございますが、烏帽子会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



# 第 125 回九州医師会医学会第 5 分科会 第 78 回九州小児科学会 第 100 回日本小児神経学会九州地方会 開催のご報告と御礼

福岡大学医学部 小児科学 主任教授 永 光 信一郎 (13回生)

初夏の候、烏帽子会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、去る 2025 年 11 月 29 日(土)～30 日(日)にソラリア西鉄ホテル福岡におきまして「第 78 回九州小児科学会」を、また、2026 年 1 月 10 日(土)～11 日(日)に福岡大学医学部 RI センターにて「第 100 回日本小児神経学会九州地方会」を主催いたしました。両学会の開催にあたりましては、福岡大学医学部同窓会「烏帽子会」より多大なるご寄付を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

第 78 回九州小児科学会では、九州・沖縄 8 県の大学病院、市中病院、および小児科医会から多数の小児科医が集まり、最先端の小児医療・研究の成果を披露する場となりました。特別講演には、日本小児科学会会長・京都大学小児科主任教授の滝田順子先生をお招きし、「小児医療の未来を切り拓く～全ての子ども達に輝かしい未来を～」と題してご講演いただきました。期間中に開催された恒例の野球大会、会員懇親会、小児科教授・こども病院長親睦会、若手論文賞発表会等を通して、九州・沖縄の小児科医が一堂に会する機会を

持てましたことは、今後の小児医療のさらなる充実につながるものと期待しております。

また、第 100 回日本小児神経学会九州地方会では、100 回の節目を記念し、1 月 10 日(土)に KKR ホテルにて、本地方会の創始者のお一人である花井敏男先生(福岡山王病院神経小児科)より、半世紀にわたる歴史をご紹介いただきました。翌日の 11 日(日)には、九州・沖縄から 140 名の小児科神経科医が集い、早朝から夕刻まで、未診断を含む貴重な症例の診断・治療過程について、小児神経学の発展に向けた熱い議論を交わすことができました。

両学会とも、多くの先生方にご参加いただき、盛会のうちに幕を閉じることができました。皆様から賜りましたご寄付のおかげをもちまして、充実した内容の学会を開催できましたことを、重ねて感謝申し上げます。両学会で得られた知見を、今後のこどもたちの健やかな育成に繋げていく所存です。

末筆ではございますが、烏帽子会会員の皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 第38回腎と脂質研究会を終えて

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 准教授 伊藤 建二 (25回生)

このたび、福岡大学医学部同窓会のご支援を賜り、2026年2月28日(土)に、当科の升谷耕介主任教授を会長として、第38回腎と脂質研究会を主催させていただきました。紙面をお借りして、ご報告申し上げます。

本研究会は、当科先々代主任教授である齊藤喬雄名誉教授が中心となって発展に尽力された研究会であり、当科が主催するのは、齊藤名誉教授在任中に国際シンポジウムとして開催した第25回以来となりました。

腎臓病診療における脂質管理は、高血圧や糖尿病に比べると、やや脇役のように捉えられることがあるかもしれませんが、しかし近年では、難治性ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレシスが、巣状分節性糸球体硬化症のみならず、膜性腎症や微小変化型ネフローゼ症候群など、比較的頻度の高い疾患にも適応が拡大されています。さらに、選択的PPAR $\alpha$ 作動薬であるペマフィブラートについても、高度腎機能障害患者への適応拡大が進むなど、本領域には多くの注目すべき話題があります。また、脂質異常症は心腎連関の観点からも生命予後に深く関わる重要な領域です。こうした背景のもと、本研究会が最新の研究成果や実地診療に根ざした知見を共有する貴重な機会となることが期待されました。

今回の研究会には85名にご参加いただき、一般演題も13題と、例年を上回る多くの参加者と演題が集まりました。当教室からも、衛生・公衆衛生学教室との共同研究である長崎県壱岐市の健診データを用いた演題「メタボリックシンドロームが慢性腎臓病の新規発症と増悪に及ぼす影響：ISSA-CKD研究」を大学院生が発表し、優秀演題賞を受賞することができました。教室としても大変喜ばしい成果であり、今後のさらなる発展を期待しております。

特別講演では、福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科の小林邦久教授に、「糖尿病を併存する脂質代謝異常の特徴と治療」と題してご講演いただきました。近年、糖尿病性腎症を原因とする透析導入患者の割合は減少傾向にあるものの、なお原疾患の第一位であり続けています。今回の特別講演は、糖尿病を有する腎不全患者の腎予後、さらには生命予後の改善を考える上で、多くの示唆を与えてくださる大変意義深い内容でした。

本研究会を滞りなく開催し、盛会のうちに終わることができたのは、ひとえに同窓会ならびに同門の先生方の温かいご支援の賜物です。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



# 第73回日本化学療法学会西日本支部総会開催報告

福岡大学病院 感染制御部 教授 高田 徹 (特別会員)

2025年11月28日から30日まで、福岡国際会議場において、第95回日本感染症学会西日本地方会学術集會会長の広島大学病院感染症科・大毛宏喜教授とともに、第73回日本化学療法学会西日本支部総会を合同で開催いたしました。「新たな価値の共創と未来へのリンク」をテーマに、感染症診療、感染制御、抗菌薬適正使用、薬剤耐性対策を相互に結びつけ、基礎から臨床、地域医療までを多角的に議論する学術集會となることを目指しました。

本会の特色は、地方会の枠を超えた学術的広がりがありました。西日本を中心とする学会でありながら、北は北海道、首都圏の有力大学・病院からも多数の演題が寄せられ、一般演題は同年の総会を上回る462題に達しました。参加者数も過去最高の約2300名を数え、地方会・支部総会として過去最大規模の開催となりました。

プログラム面でも、診断の適正化、迅速診断、抗菌薬投与期間、抗微生物薬の安定供給、薬剤耐性菌対策、敗血症、性感染症・HIV対策、侵襲性真菌症、外来診療における抗菌薬適正使用、発熱性好中球減少症に対する抗微生物薬治療、ワンヘルス、災害時感染対策、SSI予防、誤嚥性肺炎と口腔ケアなど、感染症診療で避けて通れない課題を幅広く取り上げました。加えて、グローバル化に対応できる人材育成、西日本で報告が多い重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や、IMP-6型酵素を有するカルバペネム耐性菌を含む薬剤耐性菌診療を深く掘り下げる企画、微生物検査の知見をいかに臨床判断へつなげるかを考えるClinical Microbiology Round、HIV曝露前予防として注目されるPrEP、免疫不全患者の診療で重要なサイトメガロウイルス(CMV)感染症など、通常の地方会では取り上げられる機会が限られがちな専門的テーマにも積極的に光を当てました。こうした構成は、日常臨床に直結する課題と将来を見据えた課題を併せて扱うものとなり、基礎、臨床、地域医療、多職種連携を有機的につなぐ学会プログラムとして、新規性と充実度の両面で高い評価を

いただきました。

また、地方会こそ若手が成長する舞台であるとの思いから、ポスターに加えて口頭発表を充実させました。さらに優秀賞を各セクションに設け、研修医、専攻医、若手医師、薬剤師、大学院生らの優れた発表を積極的に表彰しました。この取り組みは多くの反響を呼び、学会関係者からも、若い世代の参加により学会全体が活性化し、楽しく学べる環境が整えられていたとの過分なお言葉を頂戴しました。

近年は物価高騰に加え、地方会を取り巻く企業協賛・寄付の環境も決して容易ではない状況にあります。その中でも、参加費は従来通り8,000円に据え置き、朝食提供や交流スペースの設置などにも努めました。こうした運営を実現できたのは、医学部同窓会の皆様からのご支援が大きな支えとなったからにほかなりません。

本合同学会を、学びと交流、若手育成の実りある機会として終えることができましたのは、理事会ならびに会長先生をはじめ、同窓会の皆様の温かいご理解とご支援の賜物です。皆様のご厚情に心より深く御礼申し上げます。



閉会式にて大毛宏喜会長と

## 第29回日本バイオ治療法学会学術集会開催報告

福岡大学医学部 生化学 大野 芳典

第29回日本バイオ治療法学会学術集会を、2025年12月6日に福岡大学病院福大メディカルホールにて開催いたしました。本学術集会は、島根大学医学部附属病院臨床研究センター 大野智教授と、福岡大学医学部生化学講座 安永晋一郎教授を当番世話人として開催され、北海道から沖縄まで全国各地より58名の参加者を迎え、盛会のうちに終了いたしました。

本学術集会では、腫瘍免疫、腫瘍微小環境、再生医療、免疫制御、AI活用など、近年急速に発展しているバイオ治療分野に関する幅広い研究発表



第29回特別講演  
(片山佳樹先生)

が行われ、基礎研究から臨床応用に至るまで活発な討論が行われました。特別講演では、北九州工業高等専門学校校長・九州大学大学院工学研究院応用化学部門名誉教授の片山佳樹先生をお招きし、「免疫制御システムの開発と治療法への適用」と題したご講演をいただき、免疫制御技術の最前線につ

いて大変有意義なご講演を賜りました。

また、ワークショップ「AIの導く未来」では、本学生化学講座の白須直人先生および産科婦人科学講座の宮田康平先生により、生成AIや人工知能を活用した研究・診療支援について講演が行われ、参加者にとって今後の研究活動を考える上で非常に示唆に富む内容となりました。さらに、ラン



第29回ランcheonセミナー  
(坂田直昭先生)

ンcheonセミナーでは、本学再生・移植医学講座の坂田直昭先生より「ブタ豚島の特性を探る」と題したご講演をいただき、異種移植や再生医療分野における最新の知見をご紹介いただきました。

学会運営においては、本学医学部5年生2名、1年

生1名の学生が運営補助スタッフとして参加し、受付や会場運営などに積極的に携わりました。また、学会後の懇親会にも参加し、全国の研究者との交流を深める機会となりました。学生にとって全国規模の学術集会運営を経験する貴重な機会となり、学術活動への理解を深める良い教育の場になったと考えております。



学生による学会運営補助

さらに、研究発表においても本学関係者が活躍し、本学細胞生物学教室大学院生の北口恭規先生が優秀賞を受賞いたしました。これは本学における若手研究者育成の成果を示すものであり、大変喜ばしい結果でありました。

このたび福岡大学医学部同窓会より賜りましたご寄付は、会場運営をはじめとした本学術集会の運営費として活用させていただきました。おかげをもちまして、全国から参加された研究者間の活発な学術交流の場を提供することができました。本学術集会開催に際し多大なるご支援を賜りました福岡大学医学部同窓会に心より感謝申し上げます。今後も本学から優れた研究成果を発信するとともに、若手研究者・学生育成および学術交流のさらなる発展に努めてまいります。



# 第 69 回日本手外科学会学術集会 開催報告

福岡国際医療福祉大学 教授 / 福岡山王病院 整形外科 部長 副 島 修 (9回生)

本学同窓会より温かいご支援を賜り、第 69 回日本手外科学会学術集会を 2026 年 4 月 9 日(木)・10 日(金)の 2 日間、福岡市のホテルニューオータニ博多および電気ビル(共創館・本館)にて開催し、無事盛会のうちに終了することができました。心より厚く御礼申し上げます。

本学術集会の福岡市での開催は、1973 年に九州大学西尾篤人教授、1983 年に恩師である高岸直人教授が会長を務められて以来、実に 43 年ぶり 3 回目となりました。伝統ある本学会を再び福岡の地で開催できましたことは、この上ない喜びであり、関係各位のご協力に深く感謝を表します。

本会のテーマは「やさしい手外科 — 持続可能なスタンダードを目指して — Gentle for Patients, Simple for Physicians」とし、医療の高度化・専門化が進む現代においても、患者さんに寄り添い、真に価値ある医療とは何かを改めて問い直す機会といたしました。次世代へ確かなかたちで継承できる診療のあり方について、参加者一人ひとりが真摯に向き合う場となったものと感じております。

学術プログラムでは、理事長講演、特別講演、海外招待講演をはじめ、シンポジウム、パネルディスカッション、ディベート、教育研修講演など多彩な企画を展開しました。海外からは韓国 3 名、米国 2 名の招待講師をお迎えし、さらに国際シン

ポジウムや韓国 - 日本手外科学会 Joint Session などを通じて、国境を越えた知の交流が実現しました。一般演題には国内 697 題、海外 34 題、計 731 題もの応募をいただき、83 セッションを編成し、各会場で熱意あふれる討論が繰り広げられました。

また、若手医師や女性医師に焦点を当てた企画、専門医制度の将来を見据えた合同企画などを通じて、人材育成と学術継承という重要な課題についても力強いメッセージを発信することができました。参加登録者数は 2,000 名を超え、会期を通じて会場全体が熱気に包まれ、会長として大きな手応えとともに安堵しております。さらに、終了後に開催された恒例の学会テニス大会においても優勝することができ、個人的にも大変印象深い学術集会となりました。

本学術集会の成功は、同窓会をはじめ、多くの皆様の温かいご支援とご協力の賜物にほかなりません。改めて衷心より御礼申し上げます。

今後も手外科領域の発展と医療の質の向上に貢献できるよう努めてまいります。末筆ながら、皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

なお、本学術集会のオンデマンド配信は、2026 年 5 月 12 日(火)から 6 月 12 日(金)までを予定しております。



会長晩餐会挨拶



テニス大会表彰式

## 「第50回 日本東洋医学会 九州支部学術総会」報告

福岡大学医学部 総合診療学 教授 鍋 島 茂 樹 (13回生)

2025年11月30日、東洋医学会九州支部総会が福岡市の電気ビル未来ホールで開催されました。開催に際し、福岡大学医学部同窓会から多額の寄付をいただき、深く感謝申し上げます。

今回は、第50回の記念大会でもあり、「次世代へ繋ぐ漢方」というテーマを掲げ、九州各地から学生や若手医師、薬剤師にも参加していただき、盛会のうちに終わることができました。修猷館高校の高校生にも発表してもらい、漢方医学が

どう役に立っているのか、将来的にどうなるのかといった議論も行われました。また、一般演題、教育講演においても優れた発表と議論が行われました。特に九州で漢方関係の臨床研究をされている方の発表がめをひきました。九州で漢方医学がもっと盛んになるよう、東洋医学会九州支部もますます頑張っていこうという気持ちを新たにしたい学会でした。重ねて、同窓会からのご援助、ありがとうございました。



# 2025年度第4回超音波分子診断治療研究会開催のご報告

福岡大学医学部 解剖学講座 教授 貴田浩志 (特別会員)

令和8年3月2日にJR博多シティ会議室にて、2025年度第4回超音波分子診断治療研究会(世話人:貴田浩志、主催:超音波治療研究会(JSTU))を開催いたしました。本研究会開催にあたり、医学部同窓会からご支援を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

近年、超音波技術は診断のみならず、薬物送達や神経機能制御などの治療応用へと大きく発展しつつあります。今回は“集束する、超音波の未来”をテーマとして、医学、薬学、工学の分野横断的な演題(合計19演題)が発表されました。福岡大学からは「アルブミン殻ナノバブルの低周波数超音波に対する応答性の検討」(吹上晃平:医学科5年生)、「アルブミン殻ナノバブルの泌尿器系疾患に対するセラノスティクス応用可能性」(立花昌寛:腎泌尿器外科学講座)、「薄膜高速振とう法による脂質殻ウルトラファインバブルの生成」(野間通裕:心臓血管外科)、「移植された膵島を超音波検査で評価するための取り組み」(坂田直昭:再生・移植医学講座)の4演題が発表されました。

午前中にはJSTU、韓国超音波治療学会(KSTU)、台湾超音波治療学会(TAITU)の共同で、International Symposium on Ultrasound

Molecular Theranostics 2026を開催し、韓国、台湾、フランス、日本から招聘した研究者による講演が行われ、集束超音波治療、血液脳関門(BBB)制御、ニューロモデュレーションなど、超音波医学の最先端研究について紹介されました。また、午後には中枢神経疾患に対する新たな治療戦略として注目される「Nose-to-Brain Drug Delivery(鼻腔から脳への薬物送達)」に関する学際的セッションも開催され、非侵襲的な脳内デリバリー技術に関する最新の知見について活発な議論が交わされました。

2020年のCOVID-19感染症流行を機に本会の参加人数は減少しておりましたが、本年度の参加人数は大幅に増加し、超音波医学、DDS(Drug Delivery System)、生体医工学分野を中心とした研究者、臨床医、大学院生を合わせて計54名となりました。多くの先生方にご参加いただき、盛会裏に閉会することができました。

今回の研究会を無事開催できたのも、福岡大学医学部同窓会からの温かいご支援のおかげであり、改めて深く感謝申し上げます。今後ともご支援、ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 同窓会の皆さまのご支援で実現した、 NICU“やさしい空間”づくり (クラウドファンディング達成報告)

福岡大学病院 総合周産期母子医療センター 講師 瀬戸上 貴 資 (26回生)

福岡大学病院 総合周産期母子医療センター 教授 井 上 貴 仁 (15回生)

福岡大学病院総合周産期母子医療センター新生児部門 (NICU / GCU) では、2025年9月1日～10月31日の2か月間、クラウドファンディング「赤ちゃん和家人の“やさしい空間”づくりプロジェクト」を実施いたしました。本プロジェクトの実施に際し、福岡大学医学部同窓会の皆様より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本プロジェクトは、福岡大学における2例目のクラウドファンディングとして(1例目は朔啓二郎前学長が推進された福岡大学イルミネーションプロジェクトです)、CAMPFIRE(クラウドファンディングプラットフォーム)を利用して挑戦したものです。2024年5月の新診療棟(本館)への移転により設備と広さは整った一方、壁面は白一色で冷たい印象が残り、保育器間の仕切りがなくプライバシーへの配慮も十分とは言えません。面会に来られたご家族がアラーム音やスタッフ間の会話、周囲の視線を気にされ、安心してわが子と向き合える空間とは言い難い——この課題を少しでもやわらげたい、という思いが出発点です。

目標は、①NICU・GCUの廊下/病室の壁面を明るいイラストで彩ること、②プライバシーに配慮したスクリーンを設置すること。目標金額は当初432万円とし、庶務課・財務課の皆さまにもご協力いただきながら準備を進めました。

また、クラウドファンディングのサイト内に本プ

ロジェクトのホームページ(活動報告ページ)を開設し、達成状況や現場の声を日々アップロードしました。支援者の方々のコメントには「NICUで過ごした日々を思い出した」「いま入院中で、少しでも環境が良くなるなら」といった温かな励ましが寄せられ、私たちスタッフの大きな原動力となりました。

皆さまの後押しにより、当初の目標を達成し、さらにNEXT GOALとして設定した750万円にも到達することができました。いただいたご厚志は、スクリーン設置と壁面装飾を計画的に進めるために大切に活用いたします。加えて、母親がよりゆったりとした環境で面会(カンガルーケア)に臨めるよう、リクライニングチェアの購入も予定しております。赤ちゃんには壁紙が見えなくても、壁を見たご家族の想いは“見えない力”となって赤ちゃんに届く——私たちはそう信じています。

今後は、購入したスクリーン、リクライニングチェアの設置箇所や壁面イラストの進捗等を、CAMPFIREサイト内の活動報告ページでご報告していく予定です。改めまして、同窓会の皆さまのご支援なくして本プロジェクトの達成はあり得ませんでした。温かなご支援とご協力に、重ねて深く感謝申し上げます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 支部だより

## 関西支部便り

関西支部長 渡 邊 太 郎 (11回生 社会医療法人 純幸会 理事長/関西メディカル病院 院長)

2025年度の活動報告を申し上げます。

十分に活発な活動には至っておらず恐縮ではございますが、2025年度は下記の3件を実施いたしました。

大学企画として、7月26日にホテルグランヴィア大阪にて「福岡大学医学部父母懇談会」が開催されました。本学より教職員11名が来阪され、大阪からは関西支部役員3名が参加いたしました。医学生の父母約50名に対し福岡大学の近況等をご説明いただくとともに、関西圏におけるOBの活躍状況等についてもご説明いたしました。親睦会では有意義な情報交換が行われました。

8月30日には関西圏出身の学生企画による上

方会が福岡にて開催されました。大阪から関西支部役員1名が参加し、在学生の皆様との交流を深めました。

また、毎年12月末に開催している「大阪上方会忘年会」(在学生の参加費無料)を、12月30日にホテル阪急レスパイア大阪にて開催いたしました。当日はOB13名、学生9名にご参加いただきました。

福岡から地理的には離れておりますが、関西圏からの入学者は年々増加しております。今後も大学と緊密に連携し、福岡大学医学部の活動を継続的に支援してまいります。また、関西における同窓生相互の連携強化にも努めてまいります。



## 第31回 鹿児島支部総会および懇親会報告

鹿児島支部長 橋 口 恭 博 (天保山内科 院長・11回生)

日 時：令和8年2月21日(土) 17:00～

会 場：鹿児島市医師会館

出席者：27名

鹿児島支部は現在200名超の会員の先生方が、鹿児島市内はもとより薩摩・大隅そして離島の県内津々浦々で活躍されております。本年度も新卒会員4名の入会がありました。今回の支部会も本部より竹下盛重副会長(3回生)をお招きし、例年通り2月第3土曜日の21日に開催することができました。

会では会員動静をはじめ、令和7年度事業および会計ならびに監査報告、令和8年度事業および予算などにつきご討議頂きました。また会員間の連絡網構築のため、県内各都市医師会別に連絡委員を委任することとなりました。特別講演として竹下副会長より「福岡大学病理が行なってきた

ATLLとEBV関連疾患」というご演題のご講演を、学生時代柔道部での師弟関係である川本 研一郎 幹事(23)の座長で拝聴することができました。

その後懇親会会場へ席を移し、元福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科学准教授で、当支部“特別会員”の鹿児島大学病院院長・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科血液・膠原病内科学教授石塚賢治先生のご発声で乾杯となりました。懇親会では一桁回卒の大先輩の先生方から初参加の若手の先生方まで、昔話や近況報告があり、楽しい時間を過ごしました。

当支部では今後も支部会員の方々にご協力を頂きながら運営し、医療業務にも生かされる絆を繋げられる様にできればと考えています。来年も2月第3土曜日に第32回支部会を開催いたしますので、ご参加を宜しくお願い申し上げます。



## まかせん会女性の会懇親会

小野内科クリニック 院長 案 浦 美 雪 (11回生)

2025年11月24日に2回目の烏帽子会福岡市部（まかせん会）の女性の会を開催いたしました。今回は少し趣向を変えて参議院議員の自見はなこ先生をお迎えして、国政について報告いただきました。

勤労感謝の日に「割烹よし田天神本店」に於いて11:30開始と、ホークスの優勝パレードと時間場所ともに被ってしまいお集まりいただいた方々にはご迷惑をおかけしました。今回は祝日のランチタイムにしてみました。15名ほどの皆様がお集まりいただきました。特別ゲストとして烏帽子会会長の小玉先生にもご参加いただきました。久しぶりの同級生や旧知のメンバーでの思い出話、近況報告など話は尽きない状況で話の輪があちこちできておりました。女性が集まるととても賑やかに盛り上がります（盛り上がりすぎてこの会

の名前を決めることを失念しておりました）。

自見先生にはご報告いただいた後も、会食にまで参加いただきましたので、今困っていることを直接聞いてもらう機会ができたのではないかと思います。ここでは学年は関係なく診療科によるグループが形成されていたのは興味深いことでした。自見先生からも「生の声を聴くことができよかった」「同窓会っていいですね」との感想をいただきました。

それぞれ楽しい会話がはずみ、予定の2時間ほどの時間はあっという間で、名残惜しそうに帰って行かれる様子にまた企画しようと思いを新たにしました。学生時代を共有した同窓生は何年何十年たってもすぐ仲間に戻れます。今回お時間の合わなかった先生方も次回はぜひお集まりくださいますようお願いして、報告とさせていただきます。



## 関東支部総会ご報告

関東支部長 柏木 慎也 (21回生)

2 / 19日に東京上野にて第2回烏帽子会関東支部総会を開催しました。

6回生から48回生まで幅広く集まりました。

もつ鍋を囲みながら近況報告をし、開業、勤務、その他業種、それぞれの現状、今後の課題、やりがいなど互いに刺激を受け、福岡の学生時代の思い出に花を咲かせていました。

受付、会計を何も言わずとも手伝ってくれる同期を見ていて、学生時代の医学祭を思い出しました。私は社会医学研究会の部長で社医研ブースを、岡部君、山崎君は特別講演で薬害エイズの川田龍平君(後に国会議員)を、医学祭実行委員会では飯島直子と網浜直子のW直を企画担当しました。当時若かった私は、「タレント企画に100万も掛けるなんて」「本学企画じゃあるまいし」などと思っていました。終わってみるとどの企画も大成功。私の社医研は過去最高動員、エイズ講演もM4講堂満席立ち見、W直も大盛況でした。医学

部の魅力の伝え方は様々であり、医師になるべき自分が先入観でものを見ていたことを戒められたものでした。

昨今の郵送費の高騰、発送の手間等を鑑み、関東支部ではこの先の連絡方法を電子メールのみで行うことにしました。連絡方法として電話、はがき、封書、FAX、電子メール、LINEなどがありますが、連絡が一方方向なのか双方方向なのか、緊急度はどうかで方法も変わってくると思います。今回は第一報を封書で送り、Google Formでメールアドレスを登録してもらう方法を取りました。340名の関東支部会員のうち、まだ70名ほどしか登録していただいております。是非ご登録をよろしくお願いいたします。また、卒後に関東の病院で研修を考えている学生さんもお連絡いただければ相談懇親会なども企画しますので、メールでご連絡いただければと思います。

●福岡大学烏帽子会関東支部  
eboshikaikantoushibu@gmail.com

●連絡先登録フォーム  
[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSevC30ga7xSHGRTVR12\\_pIbCRy90J12\\_5Y-r9T7ddjCLfIV6A/viewform?usp=publish-editor](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSevC30ga7xSHGRTVR12_pIbCRy90J12_5Y-r9T7ddjCLfIV6A/viewform?usp=publish-editor)



学年だより

## 第 11 回 + $\alpha$ 卒鹿児島同期会報告

鹿児島支部長 橋 口 恭 博 (天保山内科 院長・11回生)

日 時：令和 7 年 9 月 20 日 (土) 19:00 ~

会 場：鹿児島市天文館 居酒屋

出席者：9 名

鹿児島支部は現在会員数 200 名超となり、毎年 1 回 2 月第 3 土曜に支部総会および懇親会が開催されております、その中で第 11 回 +  $\alpha$  卒鹿児島同期会は 10 年程前よりコロナ過を除き少なくとも年 1 回夏場に鹿児島市内で“飲み会”を開催しております。第 11 回 +  $\alpha$  卒とは 1982 年入学組を中心に、留年により 12 回卒以降となってしまう同輩らや、留年により同回卒となってしまう先輩らを含む会です。第 11 回卒の福岡での学年同期会も同様に +  $\alpha$  を含み、45 年以上の旧知の気心の知れた仲間らとの“横の会”で、鹿

島支部会は地域医療で協働する先輩・後輩との“縦の会”とすると、この会は少人数ですが“縦・横クロスの会”になります。

今回は同期の武末佳子先生が烏帽子会副会長にご着任されたので、遅ればせながらそのお祝いと応援を兼ねて彼女を福岡から“招聘”し開催しました。学生時代の昔話から県内の医療情勢などの仕事の話までと話題は尽きず、とても有意義で楽しい時間を共に過ごすことができました。還暦を過ぎ身体の“ガタ”が響く様になり、時には仕事の手を緩めたくもなりますが、同輩らがそれぞれ頑張っている様子を見ると、まだ早いぞと言われていた様な気がします。この会も今後末永く続くことを祈念するばかりです。



## 学生会員支援報告

# 令和7年度 M4 白衣授与式の報告

医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21回生)

令和7年12月12日、医学部 RI 講義棟大講堂にて開催された M4 白衣授与式のご報告です。白衣授与式は CBT、臨床実習前 OSCE など共用試験に合格した M4 学生に対して、臨床実習生(医学)として医療系大学間試験実施評価機構 (CATO) から認められた証書である臨床実習生認定証の授与式に合わせて開催されました。

式典では、学年主副担任の藤田 孝之 生理学教授から M4 学生一人ずつ名前を呼ばれた後、小玉正太 医学部長・烏帽子会会長 (13 回生) より実習生認定証を授与されました。その後、烏帽子会からご提供頂いた長袖白衣を、CATO 発行の臨床実習生 (医学) の名札とともに、医学教育推進講

座教員が M4 学生へ手渡ししました。三浦 伸一郎 福岡大学病院長 (11 回生) などご来賓からの臨床実習へ向けた激励のお言葉を頂いた後、M4 学生は受け取った白衣を皆で着用し、学生代表の上平 佳祐さんの発声に続いてヒポクラテスの誓いを皆で読み上げ、臨床実習への宣誓を行いました。校歌斉唱の後には写真撮影を行い、本号表紙のように立派な白衣姿を保護者の方に披露することができました。

末筆ではございますが、M4 学生が臨床実習生のスタートを切るにあたり、ご参加頂いた先生方や白衣のご提供を頂いた烏帽子会の皆様に、心より感謝申し上げます。



## 白衣授与式・臨床実習認定式を終えて

福岡大学医学部医学科5年 上平佳祐

2025年12月12日、RI講堂にて白衣授与式と臨床実習生認定式が執り行われました。この重要な節目を迎えるにあたり、私たち学生一同を支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

白衣授与式では、烏帽子会から名前が刺繍された白衣を手渡していただきました。その白衣に袖を通した瞬間、これまで積み重ねてきた座学の記憶が蘇ると同時に、これから臨床実習生として医療の現場に足を踏み入れるという大きな責任と自覚が胸に押し寄せ、身が引き締まる思いがいたしました。

これまでの学生生活を振り返ると、決して楽な道のみではなく、険しいものでした。たびたび試練もありましたが、そういった困難を乗り越える際に、先生方のご指導や仲間との支えあいによって成長して今があると感じています。

これから始まる臨床実習では、これまでに得た

知識を医療の現場で活かし、更なる自己の成長に繋げていきたいと考えています。これからは教科書を開くだけの学びではなく、目の前の患者様や、チーム医療を支える多くの医療従事者の方々から能動的に学ぶ姿勢が不可欠です。実際の医療現場の中で、自らの未熟さを痛感することも多いかと思いますが、その課題一つひとつから逃げずに真摯に向き合います。実習を通して、知識・技術・人間性を多角的に磨き、将来患者様から深く信頼される理想の医師に近づけるよう、日々精進してまいります。

最後になりますが、この式を準備してくださった皆様、ご指導いただいている先生方、学生生活を支えていただいている大学職員の方々、そして支えてくださる保護者の皆様に感謝申し上げます。これからも努力を惜しまず、医学の道を進む責任と自覚を胸に、精一杯取り組んでまいります。



# M6 医師国家試験対策のご報告

国試対策委員長・医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21回生)

令和7年度の第120回医師国家試験には福岡大学医学部卒業生101名が受験し、新卒合格率は85.2%（合格者85名、不合格16名）と全国82大学の中で81位、既卒受験者11名を含めた全体の合格率は81.3%で全国最下位の合格率となりました。国試対策委員長として力が及ばず、卒業生の先生方に多大なご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。反省を含めて、烏帽子会にご支援頂いております国試対策のご報告をさせていただきます。

国試対策委員が中心となり、令和7年12月24日、最後第4回目の全国統一模擬試験の終了後、M6国試激励会を開催致しました。小玉 正太会長・医学部長(13回生)や、濱崎 慎 教務委員(20回生)、そして班担任や国試対策委員の先生から激励の言葉を頂いた後、後輩 M5 学生会 垣花 希亮さんからのエールをもらいました。M6 学生からは昨年エールを贈った中山裕太さんが代表として合格の決意表明を行い、皆で合格を誓いました。最後に烏帽子会から提供された国試応援袋をひとりひとりに班の担当教員から手渡して頂き、激励会は終了となりました。烏帽子会提供の国試応援袋には、福岡大学校章とロゴの入ったオリジナル応援トートバッグの中に、試験会場での栄養補給グッズ、のど飴の他、合格祈願のキットカット、試験の際に使用が指示されている HB の鉛筆と消しゴム、消毒用品、リラックスできるアイマスクなどを学

生会が協力して入れて頂きました。

また国試直前の令和8年1月には、日替わりで班担任・国試対策委員の先生方による国試対策直前講義が行われ、各回20名程度のM6学生が熱心に聴講しました。令和8年度の直前講義に関しては、卒業試験が終了して気が緩みがちな11月から12月に前倒しを行う予定です。

そして第120回国試当日2月7日と8日には、M6希望者が宿泊している博多駅近くのホテルロビーにおいて教員より激励の声かけを行いました。令和7年度より厚労省からの通達で試験会場への送迎バスが使用できなくなったこともあり、各自公共交通機関で試験会場へ向かいました。受験会場には応援バッグを持参する学生も多く、各自のお守り代わりになっているようでした。

また国試で不合格となりやすい成績下位学生への対策も重要であり、今年第120回国試が受験できなかった留年生・休学生には国試が終了した2月の半ばに集合してもらい、第120回国試をグループワークで解く勉強会を開催し、そのあとには烏帽子会のご協力により医学部学生食堂で懇親会を開催し、新M6学生としての決意を新たにしました。

国試対策に様々なご協力を頂いております烏帽子会の皆様に感謝申し上げますとともに、令和8年度の国試合格率向上に努めて参りますので、引き続きご支援のほどどうぞ宜しくお願いいたします。



国試対策直前講義  
2026年1月9日 産婦人科 平川 豊文先生



2025年度 M6 国試対策直前講義



同窓会の先生方より激励 小玉会長 医学部長<sup>13</sup>



同窓会の先生方より激励 濱崎理事 教務委員<sup>20</sup>



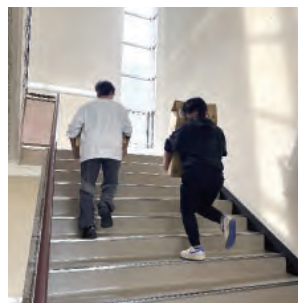
班担任・国試対策委員・教員の先生方より激励



後輩 M5 よりエール



2025年度 M6国試応援袋



学生会が協力



←マークシートセット (トンボ キャップ付き鉛筆 3本、消しゴム、削り器)、ホックイロ (興和)、エネルギーゼリー (森永製菓 マスカット味 1個、ブドウ糖 3個)、キレキレイウェットシート (ライオン)、ラムネ、VC3000のど飴 スティックレモン(ノーベル製菓)、野菜生活 100mL 2個 (カゴメ)、カロリーメイトブロック 2本入 (大塚製菓)、めぐリズム ホットアイマスク(花王)、オリジナルデザインキットカット (ネスレ)、福岡大学ロゴ入りオリジナルトートバッグ



班担任・国試対策委員より一人一人に国試応援袋を手渡し



第120回国試当日 班担任・国試対策委員より当日ホテルの出発時に激励

# M4CBT 激励会報告

医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21回生)

2026年4月14日にM4CBT激励会が開催されました。昨年までは7月下旬に行っておりましたが、今年は3か月ほど早まりました。その理由は2つあります。1つは、2026年度からは新しい医学教育モデルコアカリキュラムに沿って臨床実習期間を延長したため、CBTが昨年10月の実施から今年は8月27日へと2か月ほど前倒しとなったためです。もう一つは、第120回医師国家試験の合格率が低かったためです。CBTの得点率や項目反応理論(IRT)は、国試合格率と相関が

あり、国試合格率を上げるためにはCBTの得点を上げる必要があります。激励会はCBT演習の講義の後、学生食堂で開催され、新年度4月の段階で、小玉会長のご挨拶の後、昨年合格した先輩や班担任の先生から様々な情報や激励を個別に頂き、M4学生のCBTに対するモチベーションアップに繋がったと感じています。この激励会をご支援くださった烏帽子会や班担任の先生方に厚くお礼を申し上げます。



小玉会長挨拶



M5先輩からの激励



皆で乾杯



学年主担任 升谷教授ご挨拶



担任の先生と歓談



M5先輩と歓談



M4学生決意表明



学年主副担任 安永教授ご挨拶

事業

## 名簿管理システム導入について

烏帽子会広報担当 理事 北 島 研 (21回生)

烏帽子会では 49 回目の卒業生を排出し、会員数も令和 8 年 4 月現在総数 4,880 名に達しました。医学部・大学病院をはじめ中核病院、地域医療を担う診療所や医師会でも同窓生が広く活動し、同窓会活動も年々拡充してきています。

会員名簿は、烏帽子会会員相互の情報交換や交流に欠かせないものであり、会員の親睦、連携、信頼を温める源泉であると考えております。これまで烏帽子会事務局では会員の皆様の記載希望の有無を踏まえて、記載事項の漏れ、誤記等が無いように注意をしながら、会員から寄せられた変更届や、ご勤務されている医療機関のホームページからの近況を基に、会員名簿を冊子で作成して参りました。

しかし最近は個人情報保護法の遵守も求められており、会員名簿の流出対策として表紙一冊一冊に個別番号を打つなどの工夫をしておりました。しかし、昨今の電子化の流れや人力による 5 千名近くにのぼる会員情報更新作業に限界があり、今回、令和 6 年 6 月に発行した第 12 号の会員名簿の巻頭言でもご説明しておりましたように、Web 経由での名簿の閲覧・検索を行うシステムを導入することとしました。

各種学会や学術集会でも実績のある G-ings 社の会員名簿管理システムを用いて、会員情報の更新が同窓会事務局の他、同窓生の先生方ご自身のマイページからでもできるようになります。お名前以外の会員情報をどこまで公開するかをご自身で選ぶことにより、会員検索時における情報公開範囲をご自身で決定することができます。また同窓会費についても、お支払い（会費納入）のページより、クレジットカードでの支払いやコンビニエンスストアでの支払いが可能となり、各自の支払い状況も確認ができます。もちろんこれまでの払込票を用いたゆうちょ銀行からの振込も継続する予定です。

名簿管理システムには、同窓会事務局からのお知らせ配信機能もありますので、名簿に関するお知らせや会費徴収のお願いなど、随時行うことができるようになります。

会員情報管理システムの運用開始は近日中の予定です。開始されましたら、使用方法など改めて同窓会報や烏帽子会ホームページでもお知らせいたします。どうぞよろしく願いいたします。

## 医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

令和8年4月現在

	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
<b>[ 福岡大学病院 ]</b>			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	横 溝 久	千 田 友 紀 ④⑩	高 士 祐 一
循 環 器 内 科	有 村 忠 聰 ②⑧	川 平 悠 人 ③⑨	出 石 礼 仁
消 化 器 内 科	船 越 禎 広 ②③	内 田 洋 太 郎	松 岡 弘 樹 ③⑦
呼 吸 器 内 科	柳 原 豊 史	春 藤 裕 樹	吉 村 力 ②①
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	伊 藤 建 二 ②⑤	嶋 本 聖	多 田 和 弘
血液浄化療法センター		伊 藤 健 二 ②⑤	
脳 神 経 内 科	津 川 潤	高 橋 信 敬 ③⑨	栗 原 可 南 子
精 神 神 経 科	原 田 康 平	畑 中 聡 仁	菅 原 裕 子
〃 (ディケア)			吉 村 裕 太
小 児 科	新 居 見 俊 和	永 山 悠 悟 ③⑨	後 藤 綾 子
消 化 器 外 科	愛 洲 尚 哉	橋 本 恭 弘	中 島 亮
呼 吸 器 ・ 乳 腺 ・ 小 児 外 科	徳 石 恵 太	岩 中 剛	中 島 裕 康
整 形 外 科	廣 田 高 志 ③②	柴 田 達 也 ③⑤	金 山 博 成 ③⑤
形 成 外 科	小 柳 俊 彰	谷 ありさ	蓮 田 敏 也 ④②
脳 神 経 外 科	高 原 正 樹 ③③	神 崎 貴 充	古 賀 隆 之 ③⑨
心 臓 血 管 外 科	助 弘 雄 太	清 水 真 行 ③②	古 井 雅 人
皮 膚 科	清 水 裕 毅 ③⑥	鶴 田 紀 子	佐 藤 絵 美 ③⑩
腎 泌 尿 器 外 科	宮 崎 健 ③④	郡 家 直 敬	岡 部 雄
産 婦 人 科	吉 川 賢 一 ③⑥	平 川 豊 文 ③⑥	木 村 い ぶ き (産科)
〃		宮 田 康 平 (婦人科) ②⑨	清 島 千 尋 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	安 武 朋 寛	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科	佐 藤 晋 ③⑩	力 丸 文 秀 ①⑧	木 村 翔 一
放 射 線 科	肥 田 浩 亮	赤 井 智 春 ②⑦	中 根 慎 一 朗
麻 酔 科	富 永 将 三	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	吉 野 綾	眞 野 亮 介	喜 多 涼 介
総 合 診 療 科	日 吉 哲 也	瀬 知 裕 介 ③⑧	武 岡 宏 明 ②⑤
病 理 部	青 木 光 希 子		
臨 床 検 査 ・ 輸 血 部	森 戸 夏 美 ①⑧		
救 命 救 急 セ ン タ ー	森 本 紳 一 ③⑤	村 西 謙 太 郎 ③⑤	
総 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		瀬 戸 上 貴 資 ②⑥ (新生児部門)	
〃		伊 崎 智 子 (小児外科)	
<b>[ 福岡大学筑紫病院 ]</b>			
循 環 器 内 科	池 周 而 ②④	高 宮 陽 介 ②⑥	松 岡 優 太 ③⑤
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	池 田 大 輝
消 化 器 内 科	金 光 高 雄	永 山 林 太 郎 ③②	平 塚 裕 晃 ③⑥
腎 臓 内 科	安 野 哲 彦 ②④	盛 田 な つ み ③⑧	平 松 晶 子
脳 神 経 内 科			
小 児 科	小 寺 達 朗	中 野 亮	山 口 拓 洋 ③⑦
外 科	小 島 大 望 ②⑥	宮 坂 義 浩	和 田 英 雄
呼 吸 器 ・ 乳 腺 外 科	上 田 雄 一 郎	森 下 麻 理 奈 ④①	上 田 雄 一 郎
整 形 外 科	坂 本 哲 哉	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳 神 経 外 科	井 上 律 郎 ②⑨	湧 田 尚 樹	堀 尾 欣 伸
腎 泌 尿 器 外 科	松 崎 洋 吏 ②⑦	宮 島 茂 郎 ②②	王 丸 泰 成 ③①
眼 科			
耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科	三 橋 泰 仁 ③③	坂 田 健 太 郎 ③⑨	坂 田 健 太 郎 ③⑨
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤		
救 急 ・ 総 合 診 療 科	川 野 恭 雅		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
内 視 鏡 部			
病 理 部	田 邊 寛 ②②		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

## 教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回） [令和7.4.2～令和7.10.1]

区分	所属	役職・資格	氏名	発令日	摘要
退職	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准教授	庄司文裕	7.7.31	
	筑紫眼科	准教授	久富智朗	7.7.31	
	再生医療センター	准教授	吉松軍平	7.9.30	
	整形外科	講師	松永大樹	7.9.30	
	筑紫消化器内科	講師	小野陽一郎 ⑳	7.9.30	
	腎臓・膠原病内科	講師	渡邊真穂	7.9.30	
昇格	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講師	宮原聡	7.10.1	
	筑紫脳卒中センター	講師	湧田尚樹	7.10.1	
	消化器外科学	講師(4-7)	島岡秀樹	7.10.1	
	臨床検査・輸血部	講師(4-7)	小牧智 ㉑	7.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講師(4-7)	嶋本聖	7.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講師(4-7)	多田和弘	7.10.1	
	消化器外科	講師(4-7)	高橋宏幸	7.10.1	
	精神神経科	講師(4-7)	原田康平	7.10.1	
	筑紫整形外科	講師(4-7)	蓑川創 ㉒	7.10.1	
採用	腫瘍・血液・感染症内科	講師	島隆宏	7.10.1	

## 編 集 後 記

今号の原稿を読みながら、以前に比べて学術集会や研究会の開催報告がずいぶん増えたことを感じました。同窓生の先生方が、日々の臨床や研究に真摯に取り組まれ、その成果を学会や研究会で発表されている様子に触れると、大学を離れて久しい私でも誇らしく嬉しい気持ちになりました。

一方で、今年の医師国家試験対策の報告に目を通すと、全国最下位という結果はやはり大きな驚きでした。私も烏帽子会の理事会に時折参加させていただいており、学生教育に携わる先生方がどれ程熱心に取り組まれているかを感じています。その先生方が抱かれたであろう残念なお気持ちは、察するに余りあります。

私自身の学生時代を振り返ると、福岡は本当に魅力にあふれた楽しい街でした。その後の発展はさらに目覚ましく、交通機関、飲食店、そして夜の社交の場に至るまで、様々な面でいっそう充実しています。しかも東京などと比べても物価は控えめで、今の学生たちにとっては、つい足を運びたくなる場所が多いことも容易に想像されます。

こうした環境の中で、学業と日々の楽しみがうまく両立できる様な形に進んでいければと願っております。学生たちがこれからますます成長し、力を発揮してくれることを心から期待しています。

下地 栄壮 (20 回生)

## 烏帽子会の主な事業

福岡大学医学部同窓会烏帽子会は、会員の親睦・連携・信頼を紡ぐことを目的とし、福岡大学医学部の発展に貢献するため下記の事業を行っています。

### ①会報の発行

年に2回発行しており、会員と学生会員保護者へ無料にてお届けしています。

### ②総会の開催

担当学年の特色を出した総会を開催しています。

### ③支部活動援助

支部総会に学内の同窓生を講師として招聘された場合援助費を支給しています。

支部にて年会費を徴収された場合、通信活動費用として正会員1人2,000円、準会員1人1,000円交付しています。

### ④研究奨励賞

正会員及び準会員で、会費を完納している40才未満の者又は医学科卒業後10年未満の者に、研究計画並びに研究成果に対し研究奨励賞を授与しています。

### ⑤在外研修援助

正会員、準会員で会費を完納している者、留学の目的が医学の研究または医療技術の習得であり、且つその期間が3ヶ月以上である事を条件に援助を行っています。

学生会員にも規定に沿って援助しています。

### ⑥学生会員支援

新入生、M4、M6生への激励会、新5年生の成績優秀者の表彰を実施しています。

### ⑦白衣贈与

1年生(ケー型)、5年生で使用するBSL用の白衣2着(長着とケー型または半袖)を贈与しています。

### ⑧国試対策

夏期、直前に開催されるセミナーへの協力、試験中のケア、国試激励会への協力をしています。

### ⑨支部総会援助

支部総会に理事が出席する場合は祝儀をお届けしています。

### ⑩学生行事援助

学生会員が、対外試合または活動において優勝或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与して表彰しています。

学生会・医学祭運営に関する相談、及び、監査を行っています。

### ⑪学会寄付

同窓会員(正会員、準会員)が学会を開催するにあたり申請があった場合、理事会にて学会の規模等を検討し寄付を行っています。特別会員からの申請にも対応しています。

### ⑫慶弔贈与

同窓会会員の慶弔に対し、規定に基づき電報、祝儀、弔慰金をお届けしています。

### ⑬グッズ作製

ネクタイ、スカーフ、Tシャツ、白衣の作製をしています。

### ⑭会員名簿発行

4年毎に名簿を発行し、会員には無料にてお届けしています。

### ⑮パニックマニュアル発行

5年毎に作製し、会員に無料にてお届けしています。会員が執筆を行い、研修医を対象として作製しています。卒業生には名簿とパニックマニュアルを同窓会よりの卒業祝いとしています。

### ⑯奨学金貸与

福岡大学医学部医学科学生(主に上学年)で学業成績優秀、品行方正、身体強健なるも経済負担能力に乏しい者に対し、奨学金を貸与し、優秀な学生の育成に寄与する事を目的として実施しています。

### ⑰保険コンサルティング

シンフォニアと提携し、学生会員への保険のご案内をしています。また正会員へは弁護士、社労士等の紹介をしています。

### ⑱ホームページ

ホームページをリニューアルし、会員へ情報提供をしています。

### ⑲大学院生への援助

基礎系及び臨床系大学院の入学金の援助を行っています。

## 烏帽子会会報第80号

---

発行日 令和8年6月22日

発行人 小玉 正太

編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話:092-865-6353(直通)

092-801-1011(代表) 内線[3032]

FAX:092-865-9484

E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 口一タリ一印刷株式会社

福岡市中央区港2-8-9

電話:092-711-7741

FAX:092-711-7901